

じんけん通信

2022年12月23日
No. 8

人権講演会がありました！

12月6日（火）に人権講演会がありました。今回は在日韓国・朝鮮人三世で世界的ジャグリングパフォーマーである「ちゃんへん.」さんよりご講演いただきました。まず世界的神業のジャグリング、ディアボロを見せていただきました。高さに制限のある体育館の天井ギリギリにコマを上げる技術の高さ、音楽と技の融合など、素晴らしいパフォーマンスでした。生い立ちや親族の話の中にところどころ重要な歴史の学習も入れ込み、とても心に残る熱い話もしていただきました。最後に祖父への想いを込めたラップも披露いただきました。みなさんの感想を紹介します。

みんなの感想

- ・ちゃんへん. さんの話の中は全部印象に残っているけど、北朝鮮と韓国の間にある軍事境界線の話の中で、別れてしまった家族に会うことができなかったということが一番私の中でぐっとくる話でした。
- ・当時はすごく辛かっただろうけど、今は大勢の前で明るく話せるのがいいなと思いました。私もコンプレックスはいくつかあります。性格や見ためなどです。アメリカにルーツがあり、見ため（顔）がすごくいやでした。今はコロナがあって。マスクをつけていて顔を隠すことができるのですが、給食のとき、マスクを外したくなくて食べられないときがあります。「勇気を出して外そう！」と思って怖くて外せなかったりします。考えてみると大したことじゃないのですが、やっぱり怖いです。いつか笑い話にしたいです。
- ・一番印象に残っていることは「コンプレックスは武器になる」ということです。自分もコンプレックスはたくさんあるけれど、逆に考えてみれば、それが個性になるので、これからの人生コンプレックスを大事にして、自分らしく生きていこうと思いました。
- ・お母さんの話で、最初「いじめってなんであかんの？」って校長先生に聞いたときに“だいぶやばい人やなー”って思ってたけど、「素敵な夢をもつ人はいじめなんかしない」という言葉で、いじめる人はそこしか見え



ていなくて、いじめをしない人は先のことを見ているのかなと思いました。自分も

ちゃんへん. さんの家族みたいに強く生きられたらいいなと思いました。

・自分の話だけでなく、いろんなジャンルの話をしてくれたのすごくおもしろかったです。人権講演でいつも思うけど、国籍がちがう、文化がちがうというだけで生きづらくなってしまうという事実に驚きます。自分のやりたいこと、好きなことに意味を求めてしまう時があるけど、私も全力で好きなことを楽しもうと思いました。

・私はアメリカにルーツがあり、それが理由で小学1, 2年生の時に「外人は来るな」「外人は遊具を使うな」と言われてきました。小3の時大阪に引っ越してきました。大阪ではそんないじめがなく、みんな優しく接してくれました。ちゃんへん. さんは私よりも大変な想いをしていますが、私は尊敬します。自分のことを隠さずにいろんな人に講演で伝えることは簡単ではありません。今回はありがとうございました。

・ちゃんへん. さんは、いじめを受けていてもお母さんに言うと怒られると思って自分では「逃げてる」と言っていたけど、私からしたらずっと耐えているほうが100倍すごいと思いました。

・「韓国併合」「日本が朝鮮半島を侵略」「植民地支配」など、教科書に書かれている内容が国によって変わると言っていたのがびっくりしました。

・ちゃんへん. さんの子どもの頃の話では、いじめを受けたと聞いて、いじめで人の考えがガラッと変わってしまうことを知りました。お母さんの勇気が欲しいなと思いました。

・私は、いじめって靴をかくしたり、ちょっと叩いたりするものだと思っていたけど、刺したりバットでボールを打ったりして遊ばれていたと聞いて、とても心が苦しくなりました。私1人じゃそんないじめをなくすことはできないけれど、今日の話を聞く機会があったので、見つけたりしたらしっかりと注意していこうと思いました。



「国籍・いじめ・目標・夢・挑戦・栄光・挫折・蘇生 すべての過去を受け入れて・・・

現在の自分とともに歩もう！」

「自分が日々何気なく好きなことを弊害無くできる凄さや、追いたい夢を追える凄さ。家族がいる凄さ。友だちがいる凄さ。帰るべき場所や自分の居場所がある凄さなど、こういった当たり前を僕にプレゼントしてくれたのは、まぎれもない先祖たちである。僕は『当たり前』の対義語は『感謝』だと真剣に思っている。」

Ghost Blues

※ 迫り来る明日 何を残す 耳澄ます微かな Ghost Blues
ふと思い出す 手と手合わす 語りかけてくれる Ghost Blues
涙流す 汗を流す 命の数だけ Ghost Blues
ずっと照らす 手と手繋ぐ 月明かりが示す太極 Truth

ハラボジ（祖父）が言ってた「切って貼ったような人生だった」って 14 で日本に渡った
たった何秒かで人の命を奪った 次の言葉が僕の心に突き刺さった
「弾薬を工場で作ったのは私だった」と告白し乾いた頬に涙が伝った
一日中 夢中 向き合った機関銃 でも本当に求めていたのは自由
群青の空の下 生きていることが勲章 酷い雨が身を打つ 拾い集めた鉄屑
親父が継いだ岡本機器製作所 町工場 墓場 滅びゆく状況
辛い車椅子ライフ 片目は見えない 煙草も吸えない このホスピスで
俺の顔見て「パンモゴンナ？（飯食ったか？）」 こんな状況で人の心配だもんな
あんた本当にどうしようもねえ 大馬鹿野郎さ 「悪口は言わず丸く小さく生きていけ」
搾り出す一言がパンチライン 笑う恥じらいの無いアインシュタイン
右向け右 走り続けたゴーストの記憶は脆く記録にはならない
ハラボジが言ってた「切って貼ったような人生だった」って でも「良い人生だった」って

※

ばあちゃんがじいちゃんの話をも聞かした 骨埋める覚悟で日本に帰化した
やった喫茶店 パイプ店 焼肉屋 聞いたよ自営業のやりにくさ
毎朝公園へ散歩しに行った大きな頑固じじい
日本で必死に頑張ったが耳にした病名はガンだった
留学行く前言うと思った 「世界を知ってこい」
でも俺を見て一言言った ただ「元気で行ってこい」
なら俺の元気な姿を見ても 悔しかったら起き上がって来てみる
もらっちゃったねハゲる DNA あんたに似ないと良いですね
じいちゃんラップって知ってるか ばあちゃんはダジャレって言ってるが
主張すんだよマイクを手に取り 面白いんだぜ時代劇より
あん時あんたが死んだ 初めてあんたの強さを知った
あの時代を生き抜いた人生 儚いし 今度行くよ墓参り

※

何気なく日々言った 言葉が一番心に響いた
精一杯、目一杯生きてくよ それが俺なりにできる 供養
いつの事だろう 吐いた言葉を聞き思った 強いつてどんなことだろう
死が近づいた やっと気がついた 俺は三日月だ いつか満たす日が
来ること願って見上げる満月 容赦なく下される未完結な判決
いつか亡き人の努力が報われるとき 月と太陽が結ばれる
言葉聞き取れなかった最後 でも確かに受けた最高の愛を
誠実な態度で示したいよ 俺の背後で照らす太陽